

## 未来を拓く北千葉道路

北千葉道路(一般国道464号)は、事業化されている印西市若萩から成田市大山までの13.5km区間の開通を目指して着実に整備を進めています。この道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流と連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に寄与します。

北千葉道路の道づくりは、地域の未来を拓くこと。その中でも将来の地域づくりを担う子どもたちに道づくりのこと、この道路が通る地域の水環境のことなどを学んでもらい、その成果を豊かな自然環境を育む活動として未来へつなげ、住みよい地域づくりに向けて、一步一步前進していきます。



印西市立いには野小学校

平成23年  
6月



水草の観察

工事現場の見学



平成23年  
12月

成田市立八生小学校



大竹工区(ヨシ原造成地)の見学



子ども会議 こどもかいぎ

印旛沼の素晴らしい自然環境を守り、永く愛される道づくりを目指して、未来を担う子どもたちによる「北千葉道路子ども会議」を平成20年度から行っています。

この会議では、北千葉道路の工事現場や印旛沼の四季の素晴らしさを体験し、北千葉道路や印旛沼の将来の姿を話し合うワークショップなどの活動を行っています。昨年度に引き続き、事業区間の起点に近い印西市立いには野小学校の4年生が参加しました。

また今年度は、成田市立八生小学校の4年生も「子ども会議」に参加し、北千葉道路の工事現場や印旛沼を船上から学習しました。

## 印旛沼を渡った！ 北千葉道路

平成22年10月より、印旛沼渡河橋で橋の骨格である桁の架設工事が始まりました。橋桁は、成田新高速鉄道との一体下部工(中面下④参照)の上に架設され、印旛沼を渡河する兩岸から沼の中央に向けて工事が進められてきました。平成24年1月に橋桁はつながり、印旛沼に架かる橋の全体像が姿をあらわしました。

この橋は、完成すると橋長が592mになり、県が管理する橋のうち利根川に架かる「銚子大橋」「利根川大橋」「小見川大橋」に次いで4番目に長い橋になります。



北印旛沼

(平成24年3月撮影)



平成23年  
10月の活動

水温調査

魚を発見



平成24年  
1月の活動

ヨシの苗を植栽

水草を植栽

鳥の足跡を発見

子ども会議 こどもかいぎ



魚についての発表

鳥についての発表

平成24年  
2月



龍伝説の絵を描いたよ

ピオトープの生物についての発表



連結する桁をクレーンで移動

連結する桁

連結作業(桁を掘え付けているところ)

連結作業(ボルトで固定しているところ)

## 渡河橋がつながる瞬間

印旛沼渡河橋の成田国際空港方面に向かう下り線(成田新高速鉄道の北側)の橋桁を架ける工事を平成22年度から進めてきました。沼の兩岸から架け始めた橋桁は、平成24年1月につながり、2月に最後のボルトが締められました。



最後のボルトを締結する北千葉道路建設事務所長



大竹工区のヨシ原

平成23年8月

成田新高速鉄道と北千葉道路が北印旛沼を渡ることで、その周辺にすむ湿地性希少鳥類の生息に影響を与える可能性があることから、その代償措置として「北須賀工区」と「大竹工区」の2箇所で、新たなヨシ原の再生作業を行っています。

## ヨシ原の造成



印旛沼周辺の生物  
コジュリン

河川や湖沼の草原などに生息するホオジロ科の鳥。さえずりは「ピッチリリッピッチョ」と鳴きます。

撮影: 浅野雄氏



北須賀工区のヨシ原

平成21年7月

平成23年8月



成田新高速鉄道と北千葉道路の事業概要、成田湯川駅や印旛沼渡河橋の模型、発掘された埋蔵文化財などを展示しています。是非お立ち寄り下さい。



成田新高速鉄道・北千葉道路 インフォメーションセンター  
(成田市北須賀1622-2 印旛沼漁業協同組合内会議室) 木曜日休館  
北千葉道路建設事務所  
※北千葉道路ニュースvol.1~vol.3が閲覧できます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/kitachi-do/>